

# 映像を際立たせる音楽の魔力

## 木村奈保子

「あなたのハートに何が残りましたか?」というキャッチで視聴者の心をつかんだ木村奈保子さん。

テレビ東京系「木曜洋画劇場」の映画解説者を17年務め、その間様々な映画の解説を担当してきました。

現在はフルートバック“NAHOK”のデザイナーとしても活躍中です。



作家、映画評論家、映像制作者  
映画音楽コンサートプロデューサー  
NAHOK バッグデザイナー  
ヒーローインターナショナル(株)  
代表取締役

# MAGNETIC

「誰も音楽を聞くために映画を見に行かない」と、モーリス・ジョーベールは言った。フランソワ・トリュフォー監督作にかかわった初期のフランスの映画音楽作曲家である。

そもそも、映画音楽は、映像が主体で、物語に合わせて作る音楽であり、独立した音楽として成立していなかったため、芸術的な音楽家にとって生活のための手段でしかなかった。

かくして、音楽家はジレンマを感じながらも、その技術とセンスを生かす人も現れ、「映画音楽」というジャンルが築かれていく。

その功績が最も大きいのは、エンニオ・モリコーネとニーノ・ロータであろう。いずれもイタリアの作曲家である。吹奏楽団、クラシック楽団の映画音楽公演で何度もリストアップしてきた作曲家ではないだろうか。むしろ、こうした偉大な映画音楽作曲家なくして、名作たり得なかったといい切れるほどだ。

ニーノ・ロータは、すべてのフェリーニ映画と「太陽がいっぱい」「ゴッドファーザー」など、テーマ曲を聞いただけで映像や物語が浮かび上がるほど、音と映像の密接な関係を成立させた。

つまり、映像1+音楽1=2ではなく、映画の物語にとって最も大切な「感情」というものを掘り起こし、1+1=10といった計算外の域に広げたのだ。

ニーノ・ロータは、あくまで映画音楽は趣味という程度で始めたが、大衆のハートをつかむ映画音楽の大家となった。映画の力もまた、音楽にとって重要な役目を果たしているといえよう。

さて、映画の主人公は「哀愁」を感じさせる人物が常に魅力的だ。

同じくエンニオ・モリコーネの「哀愁」感も、物語を引き立てる。

セルジオ・レオーネ監督とマカロニ・ウェスタンで組んでから、マフィアものの「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」に至るまで、男の「切なさ」を表現しつづけた。



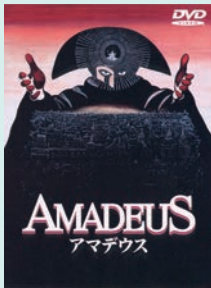
太陽がいっぱい (1960)  
フランス・イタリア合作映画  
監督: ルネ・クレマン  
主演: アラン・ドロン



ゴッドファーザー (1972)  
アメリカ映画  
監督: フランシス・フォード・コッポラ  
主演: マーロン・ブランド/ロバート・デ・ニーロ



ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ (1984)  
アメリカ・イタリア合作映画  
監督：セルジオ・レオーネ  
主演：ロバート・デ・ニーロ



アマデウス (1984)  
アメリカ映画  
監督：ミロス・フォアマン  
主演：F・マーリー・エイブラハム



シヨパン 愛と哀しみの旋律 (2002)  
ポーランド映画  
監督：イェジ・アントチャク  
主演：ビョートル・アダムチク



クララ・シューマン 愛の協奏曲 (2008)  
ドイツ・フランス・ハンガリー合作映画  
監督：ヘルマ・サンダース＝ブラームス  
主演：マルティナ・ケデック

フルートを大きく扱った映画音楽がなかなか作られないようだが、そこで、フルート奏者のみなさんには、今後、あるいは今後とも演奏して欲しい曲がある。

私の生涯ベスト作品の1本である「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」のパンフルートの曲『コックアイの歌』である。

パンフルートはルーマニアの羊飼いの間で伝わったとされる素朴な楽器。本来のフルートとは意味も価値も異なるのだろうが、洗練されたフルートの音色で、懐かしさや哀愁を感じてみたいと思うのだが、どうだろうか。

映画は、貧しい移民からギャング仲間を経て、友情や裏切りに彩られた青年たちの哀愁を描くものだが、この『コックアイの歌』を聞くだけで、長編ドラマのシーンのすべてが頭に甦る。デ・ニーロ演じる主人公の人生を、この1曲で体感してしまえるのだ。なんとという音楽の力、演奏の力……。

そこで、映画ファンが映画音楽をライブで聞くときの願望はといえば、指揮者や演奏者がまず、演奏する映画を見ることだ。これまで私も多くの映画音楽の公演で解説を行ってきたが、映画ファンだという指揮者や演奏者とお会いした経験は少ない。クラシック奏者にとって、譜面で演奏するのはわけもないことで、わざわざ映画の作品までは見ていないという指揮者の方も少なくない。

確かに、楽団として演奏者のテクニックが安定していれば、そして公演の趣旨、演出などがしっかりしていれば、必ずしも必要ないのかもしれない。

ただ、これまでで素晴らしかった映画音楽公演のひとつは、ティム・パートン（監督）とダニー・エルフマン（作曲家）の世界観で繰り広げる映画音楽コンサート。日本では、東京フィルハーモニー交響楽団で演奏されたが、ダニーの映画愛、表現が熱く、思いが伝わるもので、演奏以上の楽しみが大きかった。

映画音楽のコンサートである限り、公演会場が、こうした映画の世界として、演出されているほうが、物語に入りやすい。クラシックの演奏会とは明らかに異なるポイントだ。

映画の体験を音楽で伝えるには、かつての映画の名曲をアットランダムに並べて演奏し、合間に映画のお話をする、という形式は、お手軽にやり尽くされた。

映画のキーワードを作り、その世界に入っていけるような空間作りをしたい。演出や構成により、演奏者も観客も入っていけるシネマワールドを目指したほうが面白いのではないかと、日々考えてきた。

私は、これまで映画解説のおはなしをする出演者側だったが、解説としてのしゃべりは、音楽とは異なるリズムになる。流れを止める感じがするのだ。これが、さらにけたたましいサウンドのアナウンサーしゃべりになると、邪魔にしかならない。演奏と同じ一体感で持っていきたいが、主催者側はなかなか保守的で、提案は実らないことが多い。

まずステージの演出ありきで、映画の世界観を表すこと、ビジュアルの部分を活用したり、物語や主人公の世界に入れるような舞台の見せ方をしたい。もちろん、映



チャイコフスキー (1970)  
ロシア映画  
監督: イーゴリ・タランキン  
主演: インノケンティ・スモクトゥノフスキー



バガニーニ  
愛と狂気のヴァイオリニスト (2013)  
ドイツ映画  
監督: バーナード・ローズ  
主演: ロジリン・ヘラー



ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ (1999)  
ドイツ・アメリカ・フランス・  
キューバ合作映画  
監督: ヴィム・ヴェンダース  
主演: ライ・クーダー



ルートヴィヒ (1972)  
イタリア・フランス・西ドイツ合作映画  
監督: ルキオ・ヴィスコンティ  
主演: ヘルムート・バーガー

画に関する限り、頼まれれば、私が演出と構成を引き受ける。

一方、大きい公演でなく、一人ひとりの演奏者がソロライブやアンサンブルを行なうときには、映画音楽の演奏曲をCDや譜面でリストアップするのではなく、映画の魅力で選んでみることはできないか？ ひとつの作品や、映画ジャンルにフォーカスし、映画の世界や作曲家の研究をして掘り下げていく準備も必要だろう。エンタテインメントは、音楽家の演出力も問われる。

ところで私の好きな映画ジャンルに、バックステージもの（劇場や舞台裏にフォーカスした作品）がある。

映画音楽よりも、音楽寄りの作品で、音楽家の裏話や生涯を描くもの。

クラシックではあまりバックステージものと言われないが、モーツァルトを描くおなじみの「アマデウス」、「ショパン 愛と哀しみの旋律」「クララ・シューマン、愛の協奏曲」など、俳優が音楽家になりきって、音楽人生に迫る物語。特に映画「チャイコフスキー」は、ロシア映画だけあって、音楽家の魂が伝わる名作だ。

バックステージものは通常、俳優が音楽家の人生を演じるが、現代では、演奏家本人が登場して恋愛ものにした「バガニーニ 愛と狂気のヴァイオリニスト」が印象深い。

デヴィッド・ギャレット本人が主演し、演技もしているだけに、その演奏シーンは圧巻。音楽家が自身で演じる力を持つことができると、生前伝記映画も生音で、どんどん作られていくだろう。

そして昨今は、伝記映画から発展して、より明確にミュージシャンのみが登場する音楽ドキュメントが続々登場し、音楽主体の作品が少なくない。映画音楽ではなく、音楽映画である。

キューバの老ミュージシャンたちによる「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」や、クラシック楽団では、オランダのオーケストラによる「ロイヤル・コンサートヘボウ オーケストラがやって来る」など、演奏者自身がそのまま全編に登場するドキュメント形式で、音楽論や人生哲学も語られ、映画として十分鑑賞に値する作品までに進化した。

最後に、もっとも私が敬愛するルキノ・ヴィスコンティ監督の「ルードヴィッヒ 神々の黄昏（たそがれ）」が、映像と音楽の融合を最も美しく創造した作品であることを追記する。

国が破滅するまで、建築と音楽のために浪費したルードヴィッヒII世（第4代、バイエルン国王）を描く壮大な芸術映画。ワーグナーの音楽の魔力にとりつかれた王の退廃の美学が、美貌の俳優、ヘルムート・バーガーにより見事に表現された。これほどまでに映像と音楽の絢爛たる世界が構築された美しさを私は、ほかに見たことがない。

# MUSIC